

何かの折に、よくお話しするのですが、

私の前住地である玉宝寺の境内に、いつの間にか(?) 神奈川の名木百選に選ばれていた”しだれ桜”の樹があります。



もう四・五年も前になるでしょうか、A K B 4 8 という大層人気のある女の子達のグループの中の三人の子が、「春を訪ねて」ということで、カメラを片手に撮影にやつて来ました。初めのうちは、順調に撮影していたのですが、見学者が多くなり、外での撮影が出来なくなつて、本堂の中に逃げ込んで来ました。そして私に、「和尚さん、私は春を撮りにきたのですが、何か春らしい物、ありますか?」と聞くのです。

さてさて・・・空気も水も、みんな春だよと言ったのですが、若い女の子達はキョトンとしてわからなかったようでした。

これと同じような話が禅語の中にもあります。

春在枝頭已十分 (春は枝頭にあつて、

すでに十分)

と、宋の載益たいえきという人の「春を探るの詩」の中の句にあります。

春はどこに来ているのだろう。

一日中尋ねたが、どこにも見当たらない。

ふと、自分の家の梅の枝を手にとつてみると、花が咲いて春を告げていた。

探していた春は、どこか遠くにあるのではなく、自分の身の回りにいくらでも、あるのだよ。どうしてそれに気づかず、人は遠くを尋ねようとするのでろう。



そんな意が込められています。「春」を「仏道」「真理」「幸せ」を置き換えて読むことも

出来るでしょう。

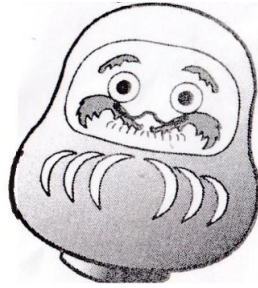
年頭に際し、皆様方の福寿無量を心からお祈り申し上げます。

新しい年を迎えて

— 安心の心 —

新年を迎えるということは、まぎれもなく、過去一年をつつがなく生きたしるしですから、喜ばしい節目にたどり着いた証でもあります。

世の中には、いろいろな悩みを抱えて、早く死んでしまいたいと思っている人もいれば、一年を何も考えず、ただ年齢を重ねていくように生きている人もいます。又、一日でも長く生きて沢山のお金を手に入れよう、おいしい物をたらふく食べよう、



もつときれいになろうと、蓄財や健康増進に精を出している人も沢山います。

いつの世にもいる、そのような人達に対して、仏教は「生き方・生きる姿勢・態度・生きる心がけ」を説いてきました。

仏さまの教えの中に、「安心あんしん」という言葉があります。これは、ほつと一安心あんじんという意味ではなく、安心立命あんじんりつみょうの安心あんじんであり、仏さまの教えを深く信じ、実践して、その結果として心の安らぎを得ている状態を表わす言葉です。

言い換えれば、周りに左右されず、心が乱れないことであり、物事にこだわって悩んだりしないことです。

この一年、そのような「安心」の心をもって生きたいものです。ネ。



一口伝導板

○さうだ、あんまり自分のことばかり

考へてゐた、
あたり
四辺は洞ほらあなのやうに暗い — 我執 —

○付かなくも

消えゆく命 なればこそ

帰依すべきなり 三世のほとけに

○けふほめて 明日悪くいう人の口

泣くも笑ふも 人の世の中

○信心は木の葉の上のたまり水

さらさらもゆく

とくとくもゆく

○寺とは 金色に照りかがやき

法の灯火で煩惱の闇を払うところ
そして我が身を照らしみるところ

特別志納者の紹介

○為 梅屋良建上座菩提供養

金 二萬円

梅原ハル子殿

○為 洋信康乗上座菩提供養

金 拾萬円

一寸木和子殿

お志に添えるよう活用させていただきました。
ありがとうございます。

お寺から

○ザル菊の展示会開催

十一月一日の前後、境内にザル菊の展示
を致しました。

総世寺住職賞、山聖賞、鈴木石工賞など
と、勿論、私の名を冠したものの他、お寺
に関係するいろいろな会社や商店の協賛を
いただいて、ザル菊の鉢植えを作られた方
々に賞を授与しました。

思いがけぬ秋の嵐で、風の通り道になった所で栽培していた鉢（百鉢程）が全滅しました。それでも、ザル菊園の本家であり、私共がご指導いただいている檀家の鈴木三郎氏のザル菊園を観賞するかたわら、当山の駐車場を利用される方々などが、お寺をたずねて下さり、大層賑わいました。

菊作りに限らず、何事も一年を通して育てることは、本当に大変なことですが、お寺の御本堂、立木を背景にして、ひな壇に並ぶザル菊は圧巻で、来年からも総世寺の檀家を中心に菊を育て、秋の看板行事にしていきたいと改めて思いました。

一人でも多くの皆様にかかわっていただき、共に楽しみを共有したいと願っています。

○永代供養墓

先般、永代供養をなさった方の御親戚の方が御葬式、納骨に立ち合われ、当寺の永

代観音墓地への御供養の仕方、その様子に深く安心され、山形県米沢の方ですが、永代観音墓に将来、自分も入りたいとお申し込みをして来られました。実際にお寺に来られて、総世寺を選んで、檀家になって下さるといふことに対し、誠に嬉しく思いました。

境内や墓地の整備などを通し、皆が誉らしく、そしてお寺を心の支えに思つて貰えるような親しみある寺作りに励む所存です。皆様の御協力、御支援をお願いします。

